

(事例14) 40歳男性、研究員、大腿骨頭壊死による運動制限のため重量物の取り扱い禁止

類型	症候	疾患
1	5. 股関節疼痛、運動制限	16. 大腿骨頭壊死

きっかけ	<input type="checkbox"/> 健康診断の有所見	<input checked="" type="checkbox"/> その他の機会
<p>1. 対象者のプロフィール</p> <p>1) 年齢、既往歴 40歳 男性</p> <p>2) 業種、作業内容 研究所における製品の分析や実験など</p>		
<p>2. 就業制限・配慮の対象となった疾病、健診値異常 例) 高血圧、HbA1c 高値、腰痛など ぶどう膜炎、大腿骨頭壊死などなど</p>		
<p>3. 就業制限・配慮の内容 例) 高所作業禁止、出張禁止、残業禁止、配置転換、治具導入など 要就業制限 重量物の取り扱いを避けること。随時の休憩に配慮、長椅子の設置などが望ましい。</p>		
<p>4. 事例の詳細(背景、経緯、特に考慮した事情など)</p> <p>ぶどう膜炎、ステロイド治療により大腿骨骨頭壊死となった。疼痛や運動制限あり。健診の病歴にて上記確認したため面談、作業内容確認し休憩や長椅子の設置などの配慮を求めた。 (なお本人は数年後に飲酒運転による事故を起こし懲戒解雇となった。)</p>		
<p>5. 就業制限・配慮の主な目的(複数回答可)</p> <p>① 業務が当該労働者の健康、安全、疾病経過、予後に影響を与える可能性があったため</p>		
<p>6. 就業制限を実施するにあたって注意した事、阻害要因、問題点などあれば教えてください</p> <p>特別扱いとなったため、後期では特に職場の受け入れが心理的に困難となっていた。本人の無断離席や酒臭い状態での出勤など問題行動もあった様子。ただしこれらの問題について十分情報共有がされていなかった。</p>		